

新中期経営計画 "ACCEL 15"

中外製薬株式会社
代表取締役社長 COO
小坂 達朗

2013.1.30/31

* ACCEL 15: Accelerate Continuous Creation and
Evolution Leading to "Top Pharmaceutical Company"

将来見通し

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。

実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

Sunrise 2012の総括

JGAAP（日本基準）

	Sunrise 2012 最終年度目標	2012年度実績 との比較
売上高	4,600億円	3,912億円 [-688億円] アクテムラ米国上市遅延 インターフェロン市場縮小 ミルセラ上市・浸透遅延 東日本大震災
営業利益 (利益率)	800億円 (17.4%)	764億円 [-36億円] (19.5%) [+2.1%pts] 上記による売上総利益減少 薬価改定時のロシュとの負担率変更 新薬創出加算による薬価維持 BPR等による費用削減

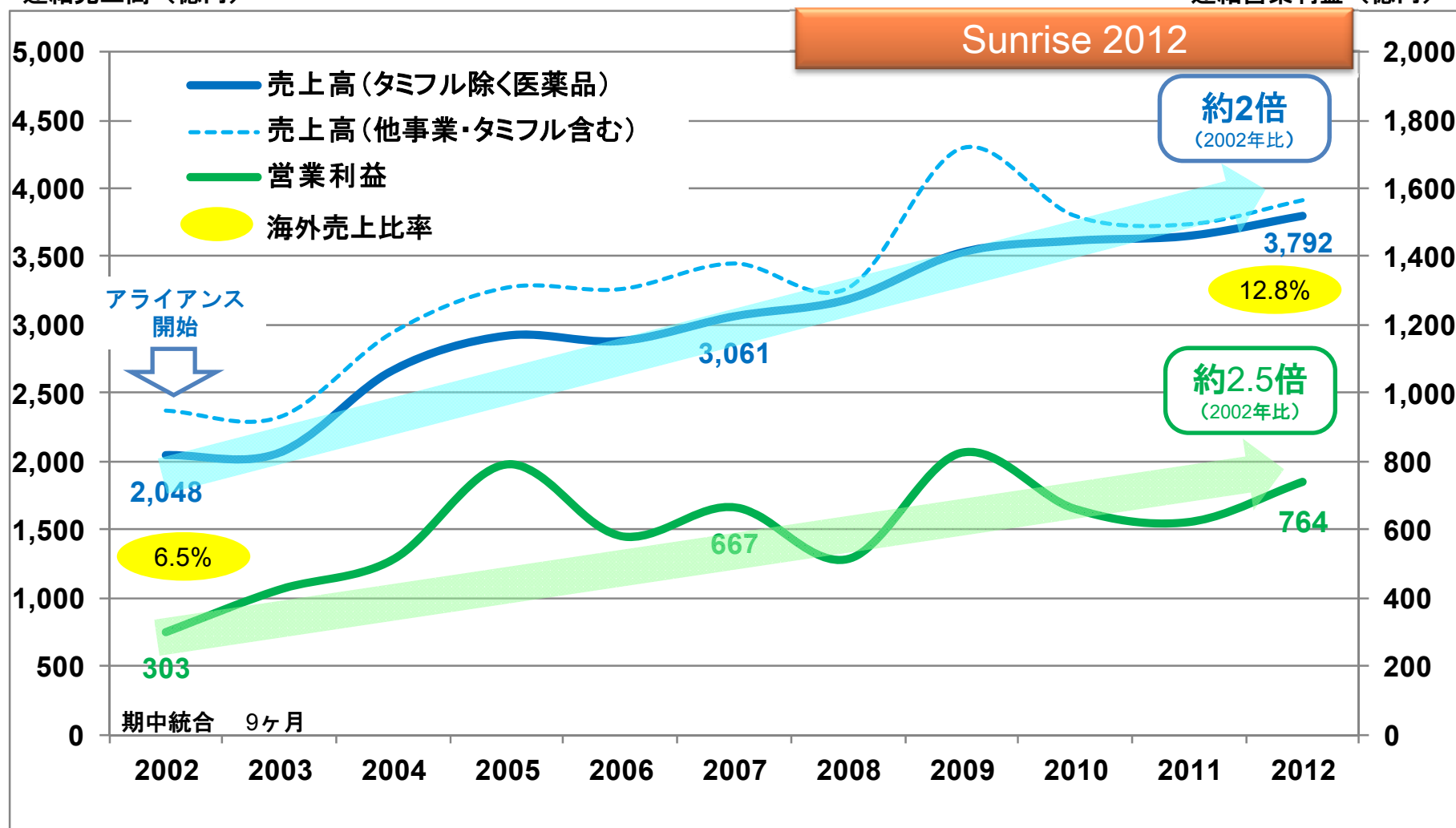
戦略的アライアンス10年の業績推移

- ✓業績は戦略的アライアンス開始以降、順調に拡大
- ✓2012年は売上・営業利益とも最高額（タミフルを除くベース）

JGAAP（日本基準）

連結売上高（億円）

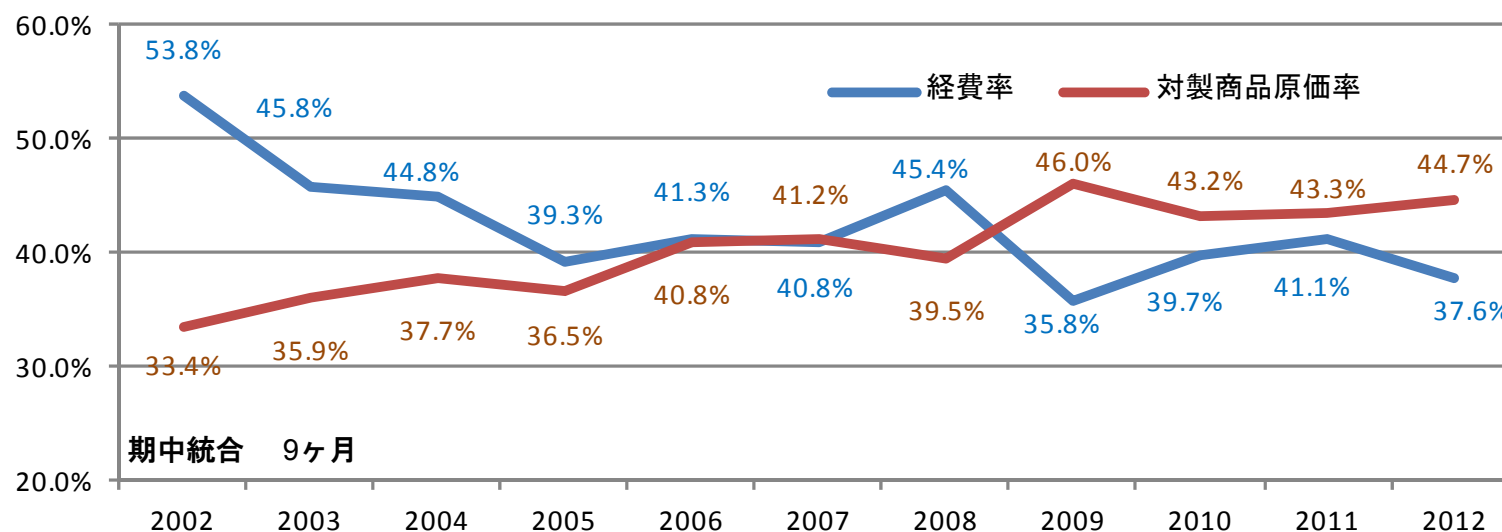
連結営業利益（億円）



統合以降の経費率推移

- ✓原価率の悪化に対応して経費率を圧縮
- ✓経費・要員数とも2割未満の伸び

JGAAP（日本基準）



研究所閉鎖
高田（東京）
筑波（茨城）
CPUSA研究
（サンディエゴ）

要員数・人件費
早期退職措置
年金制度改革

物件費効率化
購買（Ariba）
本社移転

予算適正化
政策費
一般経費
設備投資

事業売却
診断薬/OTC/
メディカル

工場売却・閉鎖・子会社化
松永（広島）、高岡（富山）
鏡石（福島）、鎌倉（神奈川）

要員数・人件費
BPR

Integration期間中の
リストラクチャリング

Transformation期間中の
コスト構造改革

戦略的アライアンス10年の成果（研究開発）

	年商200億円以上 (2012年)	フェーズ3～申請中 (新規有効成分)
がん領域	<p>アバスチン</p> <p>ハーセプチン</p> <p>リツキサン</p> <p>ノイトロジン (グラノサイト)</p>	<p><u>Perjeta*</u> (申請中)</p> <p><u>T-DM1</u> (申請中)</p> <p><u>GA101</u></p> <p><u>RG3638</u></p>
がん領域以外	<p>アクテムラ</p>	<p>Bonviva* (申請中)</p> <p>RG1678</p> <p>CSG452</p>

青字： バイオ医薬品

下線： PHC（個別化医療）対応

*海外製品名

現在の当社の強み

✓ロシュとの戦略的アライアンスを基盤として、効率的な革新的新薬の連続的創出・提供体制を構築

市場でのプレゼンス拡大と持続的売上・利益成長の実現

- ✓ 国内がん領域でのトップシェア(2008以降)
- ✓ 国内骨粗鬆症治療薬でのトップシェア(2012年)

ロシュの強みの活用

自社の強みの発展

世界同時開発・申請体制の強化
(2008-2012: 25新製品上市・適応拡大)

PHC(個別化医療)でのロシュ
グループ内連携体制

自社開発プロジェクトの充実
(2008-12: 10NMEs創出)

ロシュからの豊富なパイプライン
(2008-2012: 19NMEs導入)

次世代抗体等の最先端技術確立
とCPR*による創薬加速体制整備

ロシュとのWIN-WINアライアンス体制での協働を通じた
両社の強みの相互活用による全機能での活動の質・効率大幅向上

新中期経営計画の位置付け

✓ トップ製薬企業像早期実現に向けた変革期

IFRS（国際会計基準）

＜重要変革テーマ＞

1. 営業生産性の向上
2. グローバル開発の加速
3. 革新的プロジェクトの連続創出
4. 経営基盤の更なる強化

新中期
経営計画
ACCEL 15
(2013-15)

トップ製薬
企業像実現
(2010年代後半)

Sunrise
2012
(2008-12)

*CAGR: 年平均成長率

**2012年平均の為替レートでの一定ベース

定量ガイダンス

- Core EPS CAGR* (2012-15)
✓ 1桁台半ば～後半**
- Core EPS 配当性向
✓ 平均50%を目処

新中期経営計画における重要変革テーマ

✓現状の強みを進化&連鎖させ、価値創造の一層の拡大を図る

全ステークホルダーへの価値創造

＜すべての革新は患者さんのために＞

→ 現在 → 2015年 → 2010年代後半

差別化された高い価値の提供による
現主力製品・新製品の最大化

有力な後期開発品群のいち早い
申請・上市/適応拡大成功

ロシュプロジェクト
の早期導入・
開発加速

自社グローバル
プロジェクトの
開発加速

次世代抗体技術を核とした
連続的プロジェクト創出

オープンイノベーションによる更なる
技術革新

将来への
ビジネス
機会探求

トップ製薬
企業像
実現

1

営業生産性の向上

2

グローバル開発の加速

3

革新的プロジェクト
の連続創出

4

経営基盤の更なる強化

変革テーマ1：営業生産性の向上

【これまでに培った強み】

国内戦略領域での高市場シェア

- がん領域：
 - ✓ 圧倒的トップシェア
 - ✓ 標準治療薬の多数保有
 - ✓ コンサルティングプロモーション
 - ✓ チーム医療実現への貢献
- 腎領域 / 骨・関節領域：
 - ✓ 透析市場、骨粗鬆症市場でのパイオニアとしての信頼の蓄積
- 品質・安全性：
 - ✓ トップクラスのバイオ生産技術
 - ✓ 患者さん視点での安全性情報蓄積・提供

海外アクテムラでのロシュとの協働

- 世界100カ国以上での承認
- 英独仏における共同販促実施



【更に高めていく強み】

製品力+αの高い付加価値の提供

- 次世代抗体医薬等のファーストインクラス、ベストインクラス薬の連続上市
- PHC(個別化医療)の推進
- 更なるエビデンス蓄積・提供
- 全領域でのコンサルティングプロモーション促進
- 標準治療・地域医療への一層の貢献

変化に適応した効率的営業体制

- 柔軟・効率的なMR体制構築
- バックオフィス機能充実
- ICT技術活用

一層の協働による世界シェア拡大

- 適応拡大・新剤形を梃子とした成長の加速

新中期経営計画期間の主要成長ドライバー

↑	アクテムラ	<ul style="list-style-type: none"> • ADACTA試験での優越性証明 • 米国1stライン（DMARDs-IR）適応取得 • 皮下注製剤申請中
↑	アバスチン	<ul style="list-style-type: none"> • 標準治療薬としての評価確立 • 既存適応症（大腸・肺・乳がん）での浸透 • 再発膠芽腫・卵巣がん申請中
↑	ミルセラ	<ul style="list-style-type: none"> • 4週に1回投与による利便性 • 実臨床データ蓄積
↑	エディロール	<ul style="list-style-type: none"> • ビタミンD₃製剤で初の骨粗鬆症ガイドラインでグレードA推奨を獲得 • 強いエビデンス • 使用経験蓄積
↑	新製品	<ul style="list-style-type: none"> • 申請中：Perjeta*, T-DM1, Bonviva*等 • P3：CSG452（国内導出済）等多数

*海外製品名

変革テーマ2：グローバル開発の加速

【これまでに培った強み】

自社＆ロシュの豊富なパイプライン

- P1以降NME数
 - ✓ 自社：11 NMEs
 - ✓ ロシュ：12 NMEs
- PHC(個別化医療)対応NME数
 - ✓ 14 NMEs

世界同時開発・申請体制

- グローバル試験実施数

ロシュとの開発・生産での協働

- ロシュ導出済プロジェクト数
- バイオ生産協力体制



【更に高めていく強み】

グローバル開発能力の更なる強化

- クリニカルサイエンス機能強化
- 自社グローバル開発体制整備
- CMC開発体制充実
- 臨床的価値・ビジネス的価値の早期証明
- 有力な後期開発品群の早期申請・上市実現

より緊密・柔軟なロシュとの協働

- 積極的な導出入の実施
- グローバル共同試験の促進
- 最速開発のための相互協力強化

順調な開発申請

✓開発申請は順調

✓複数の国際共同治験を実施し、グローバルでの開発を加速

発売済み：
現在の成長ドライバー

申請予定（PoC取得済み）
将来の成長ドライバー

PEG/COPE C型慢性肝炎		PEGASYS B型慢性肝炎					
TARCEVA 肺がん		PEG/COPE C型肝硬変		T-DM1 乳がん			
AVASTIN 大腸がん		AVASTIN 乳がん		AVASTIN 卵巣がん			
FEMARA 乳がん		TARCEVA 膵がん		AVASTIN 再発膠芽腫			
EVISTA** 骨粗鬆症	AVASTIN 肺がん	HERCEPTIN 胃がん		TARCEVA 肺がん(1 st line)	AVASTIN 膠芽腫	RG3638 肺がん	
RENAGEL 高リッ血症	XELODA 大腸がん	XELODA 胃がん		BONVIVA* 骨粗鬆症(注)	XELODA 胃がん(術後)	BONVIVA* 骨粗鬆症(経口)	GA101 非ホジキンリンパ腫
XELODA 乳がん	HERCEPTIN 乳がん(術後)	MIRCERA 腎性貧血		PERJETA* 乳がん	SUVENYL 腱靱帯付着部症	T-DM1 胃がん	PERJETA* 乳がん(術後)
XELODA 結腸がん(術後)	ACTEMRA 関節リウマチ	EDIROL 骨粗鬆症		ACTEMRA 関節リウマチ(SC)	CSG452 II型糖尿病	AVASTIN 乳がん(術後)	RG1678 統合失調症

■ 自社品

□ 導入品

青字：国際共同治験実施中、済み

2003～2007

2008～2010
(発売済)

2011～2012

(申請済)

2013～ 申請予定

*海外製品名 **2012年12月末で販売契約終了 13

変革テーマ3：革新的プロジェクトの連続創出

【これまでに培った強み】

世界的水準の革新的創薬技術

- 次世代抗体技術
 - ✓リサイクリング抗体
 - ✓スニーピング抗体
 - ✓バイスペシフィック抗体
- がん幹細胞の細胞株樹立に成功
- CPR設立による創薬加速体制整備

国内アカデミアとのネットワーク

- アクテムラをはじめとする産学協同での革新的新薬創出の実績



【更に高めていく強み】

早期臨床プロジェクトへの資源集中

- 次世代抗体技術&CPRを核とした革新的創薬テーマの連続創出
- 研究・CMC・臨床機能間の密接な連携、ロシュとの早期からの協働等による開発加速

オープンイノベーションの強化

- 自社の革新的技術を礎子としたグローバルレベルでの研究者とのネットワーク強化
- 更なる技術革新への取り組み

研究面での高い生産性

✓毎年、自社品とロシュからの導入品がバランスよく新規臨床入りを果たしている

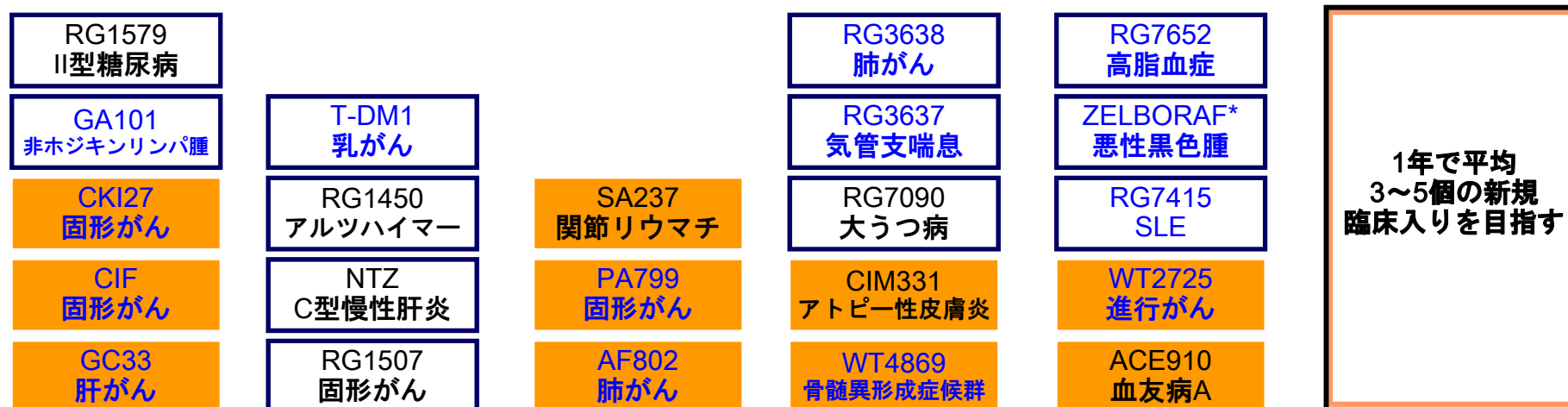
- PHCに基づくプロジェクトが多数を占めている
- 革新的創薬技術を利用したプロジェクトも2つ臨床入り
 - ◆リサイクリング抗体技術 — SA237
 - ◆バイスペシフィック抗体技術 — ACE910

新規臨床入りプロジェクト（適応拡大を除く）

■ 自社品

□ 導入品

青字：PHCに基づくプロジェクト



2008年

2009年

2010年

2011年

2012年

2013年以降

*海外製品名¹⁵

変革テーマ4：経営基盤の更なる強化

【これまでに培った強み】

同業トップクラスの効率的体制

- 高い営業利益率維持
 - ✓ロシュとの協働によるリスク&リターンバランスに優れたビジネスモデル
 - ✓革新的な主力製品群による新薬創出加算獲得
 - ✓低い長期収載品比率
 - ✓BPR等による不断のコスト削減努力

中外スタイルの浸透

- 共通理念：すべての革新は患者さんのために
- 人財像：患者さん・医療従事者・社会に信頼され、選ばれ続ける



【更に高めていく強み】

より効率的・柔軟なコスト構造

- 要員体制・設備投資等のコントロールによる固定費抑制
- 社外資源の有効活用

戦略的・機動的な先行投資

- 戦略領域強化等のための第三者製品導入
- 成長機会最大化、将来の事業機会確保のための機動的投資

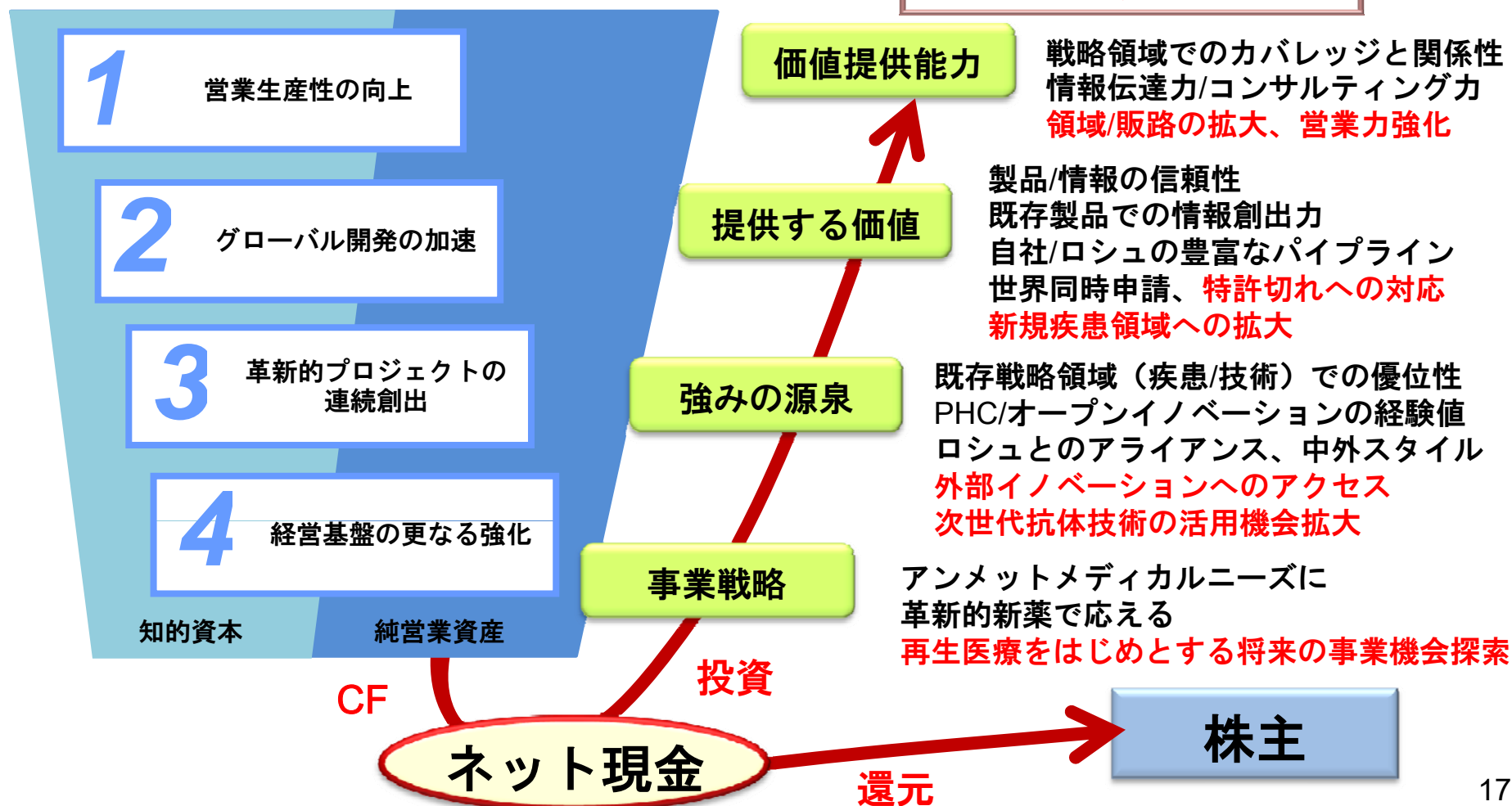
ダイバーシティの加速

- ナショナルリティ、ジェンダー等のダイバーシティ加速
- 幅広い視野・多様な専門性に基づく革新の促進

戦略的キャッシュフローマネジメント（投資）

✓ 現戦略領域でさらに成長を図りつつ、将来のビジネス機会を探索するための投資を積極化

当社の事業基盤と変革テーマ



戦略的キャッシュフローマネジメント（株主還元）

IFRS（国際会計基準）

- ✓ 積極的な投資を実行するとともに株主還元を拡充
- ✓ ネット現金残高の増加を適正にコントロール

• 配当方針

- ✓ 安定配当（原則減配しない）を目指す方針は維持
- ✓ Core EPS対比の配当性向を「平均して40%以上」から「平均して50%を目処」に引き上げ

• 2013年の配当予想

- ✓ 年間 45円（中間 22円、期末 23円）
Core EPS予想比：48.6% （2011-2013の3年平均で 47.8%）

2012年12月期 連結決算概要

中外製薬株式会社
取締役専務執行役員 CFO
板谷 嘉夫

2013.1.30/31

2012年12月期（通期） 連結決算概要

■ 前年比 増収増益

- 売上高3,912億円（+4.7%） 営業利益764億円（+22.4%）
- 国内製商品は新製品の伸長等により、薬価改定影響を上回り増収
- その他の営業収入は4品目（AF802、CSG452、GA101、FF284）の導出一時金により大幅増（+61.6%）
- コストの効率的運用により経費は減少（▲4.2%）

■ 期初予想達成率 売上高93.5%、営業利益95.5%

■ 期末配当予定20円（年間40円）、配当性向45.2%

前年同期比

2012年12月期 連結決算概要



損益の概要 1-12月実績

【億円】	2011年 1-12月	売上 (%)	2012年 1-12月	売上 (%)	増減	(%)
売上高	3,735		3,912		+177	+4.7
製商品売上高	3,636		3,752		+116	+3.2
タミフルを除く	3,549		3,632		+83	+2.3
タミフル	87		120		+33	+37.9
その他の営業収入	99		160		+61	+61.6
営業利益	624	16.7	764	19.5	+140	+22.4
営業外収益	23		30		+7	+30.4
営業外費用	12		40		+28	+233.3
経常利益	636	17.0	754	19.3	+118	+18.6
特別利益	0		0		+0	-
特別損失	65		1		▲64	▲98.5
当期純利益	352	9.4	482	12.3	+130	+36.9

- 製商品売上高(タミフルを除く)
 - 国内 +56億円
 - 海外 +27億円
- タミフル* +33億円
- その他の営業収入 +61億円
 - 導出一時金の増加
 - (AF802、CSG452、GA101、FF284)

- 営業利益 +140億円
- 営業外収支の悪化 ▲22億円

- 特別損益の改善 +64億円
 - 災害による損失 +47億円
 - 資産除去債務影響 +10億円

期中平均レート(円)

	2011年1-12月	2012年1-12月
CHF	89.86	85.12
EUR	110.92	102.59

* タミフル 内訳

	2011年1-12月	2012年1-12月	
通常	54億円	102億円	+48億円
行政備蓄等	33億円	19億円	▲14億円

前年同期比

2012年12月期 連結決算概要

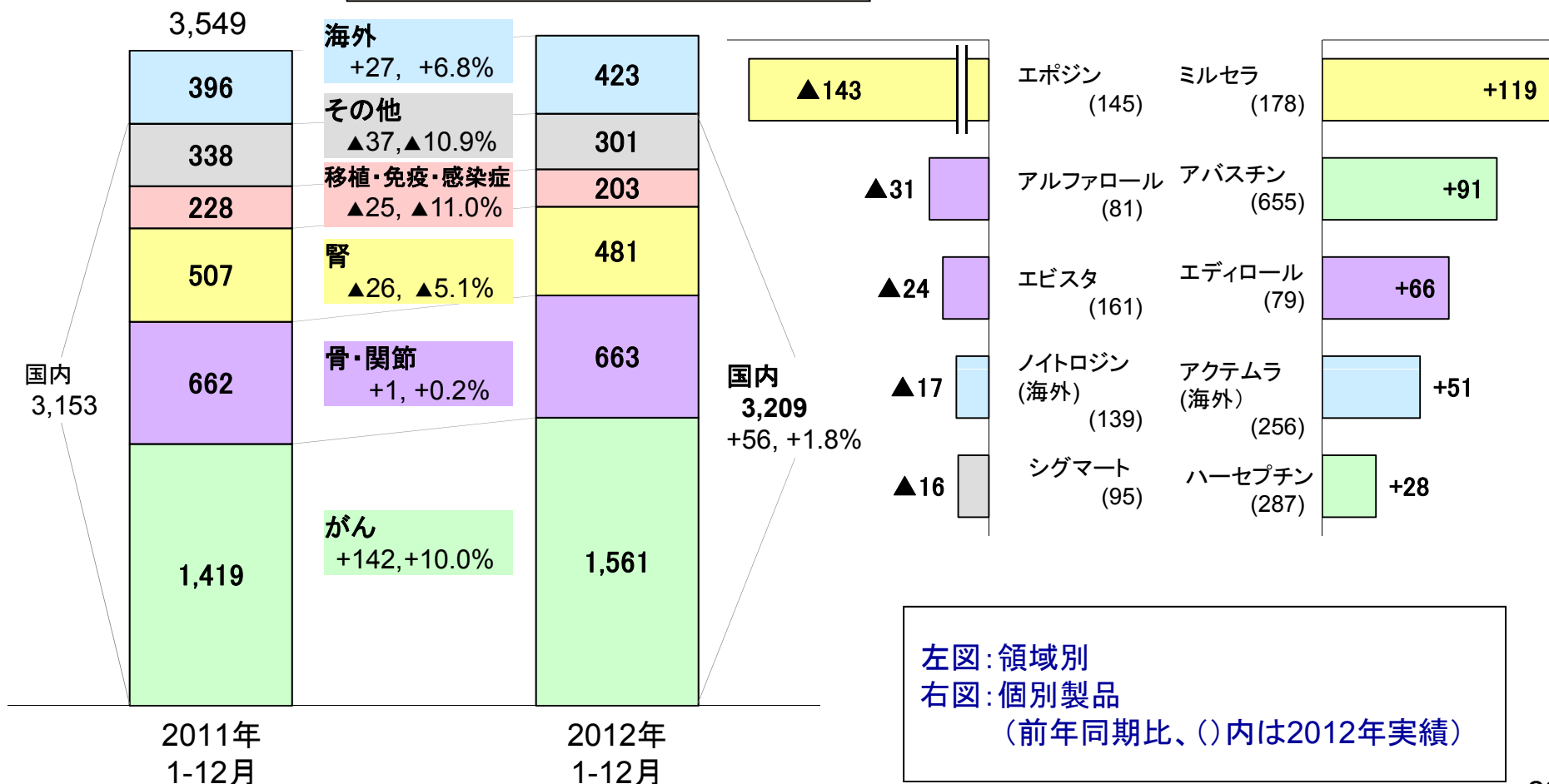


Roche ロシュ グループ

製商品売上高（タミフルを除く）の増減内訳 1-12月実績

【億円】

製商品売上高（タミフルを除く）
3,632億円（+83, +2.3%）



タミフルの売上状況

【億円】		決算期売上																シーズン 売上	定点観測数 (百万人)		
		2005年12月期		2006年12月期		2007年12月期		2008年12月期		2009年12月期		2010年12月期		2011年12月期		2012年12月期				2013年12月期	
		1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月			1-6月	7-12月
通常	2004-05	232																		246	1.47
	2005-06		119	99																218	0.92
	2006-07				37	50														87	1.01
	2007-08						52	14												66	0.66
	2008-09							57	110											167	1.27
	2009-10									252	14									266	2.02
	2010-11										2	41								43	1.26
	2011-12												13	78						91	1.63
	2012-13														24	73				97	-
	2013-14																8			-	-
通常		351 (+265)		136 (▲215)		102 (▲34)		71 (▲31)		362 (+291)		16 (▲346)		54 (+38)		102 (+48)		81 (▲21)			

行政 備蓄等	2005-06		2	65																67	
	2006-07				179	189														368	
	2007-08					96	2													98	
	2008-09						11	144												155	
	2009-10								256	106										362	
	2010-11										59	5								64	
	2011-12											28	4							32	
	2012-13													15	8					23	
	2013-14																0			-	
行政備蓄等		2 (+2)		244 (+242)		285 (+41)		13 (▲272)		400 (+387)		166 (▲234)		33 (▲133)		19 (▲14)		8 (▲11)			

合計	232	120	163	216	238	148	16	68	254	508	120	61	46	41	81	39	81	8
	352 (+266)		380 (+28)		387 (+7)		84 (▲303)		762 (+678)		182 (▲580)		87 (▲95)		120 (+33)		88 (▲32)	

黄色の網掛けは予想値、()内は前期比

* 国立感染症研究所「感染症発生動向調査」 10月下旬から4月中旬(2009-10シーズンは2009年7月初旬から2010年3月中旬)の合計患者数

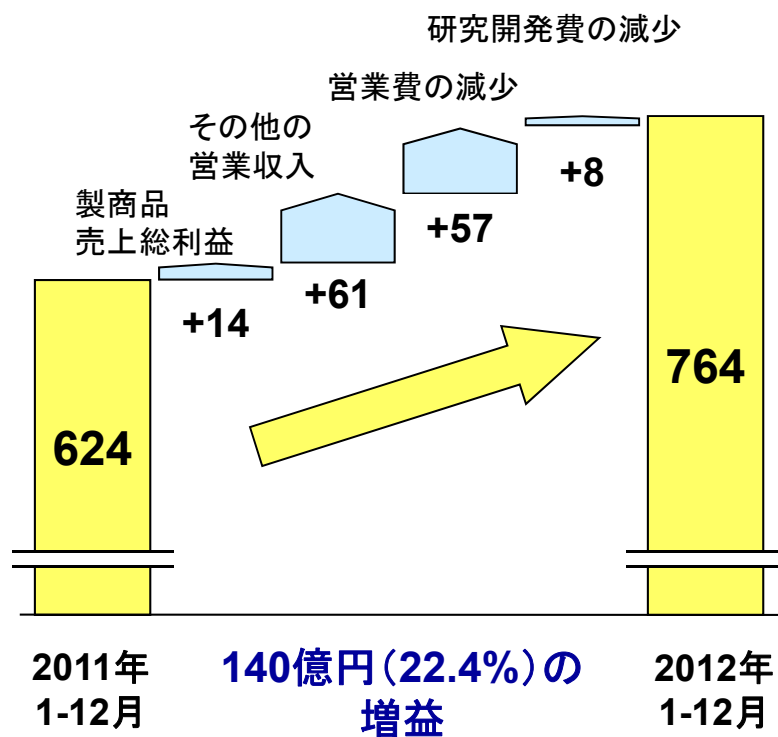
前年同期比

2012年12月期 連結決算概要



営業利益の増減内訳 1-12月実績

【億円】



【億円】	2011年 1-12月	2012年 1-12月	増減	(%)
売上高	3,735	3,912	+177	+4.7
売上原価	1,575	1,677	+102	+6.5
売上総利益	2,160	2,235	+75	+3.5
うち 製商品	2,061	2,075	+14	+0.7
うち その他の営業収入	99	160	+61	+61.6
営業費	977	920	▲57	▲5.8
研究開発費	559	551	▲8	▲1.4
営業利益	624	764	+140	+22.4

- 製商品売上総利益の増加 +14億円
がん領域、アクテムラ輸出の伸長
- その他の営業収入の増加 +61億円
導出一時金、アクテムラ関連収入 等
- 営業費の減少 +57億円
コストの効率的運用
- 研究開発費の減少 +8億円
後期開発プロジェクトの一巡

前年同期比

2012年12月期 連結決算概要



損益の概要 10-12月（第4四半期）実績

【億円】	2011年 10-12月	売上 (%)	2012年 10-12月	売上 (%)	増減	(%)
売上高	975		1,158		+183	+18.8
製商品売上高	962		1,066		+104	+10.8
タミフルを除く	937		1,028		+91	+9.7
タミフル	24		38		+14	+58.3
その他の営業収入	13		92		+79	+607.7
売上原価	421		467		+46	+10.9
売上総利益	554	56.8	691	59.7	+137	+24.7
営業費	283		259		▲24	▲8.5
研究開発費	146		151		+5	+3.4
営業利益	124	12.7	282	24.4	+158	+127.4
営業外収益	19		17		▲2	▲10.5
営業外費用	18		26		+8	+44.4
経常利益	125	12.8	273	23.6	+148	+118.4
特別利益	0		0		+0	-
特別損失	▲26		1		+27	-
四半期純利益	81	8.3	184	15.9	+103	+127.2

●製商品売上高（タミフルを除く）

	+91億円
アクテムラ（海外）	+57億円
アバスチン	+32億円
エディロール	+26億円
ミルセラ	+25億円
エポジン	▲29億円
アルファロール	▲11億円

●タミフル* +14億円

●その他の営業収入 +79億円
導出一時金 等

●営業利益 +158億円

* タミフル 内訳

	2011年10-12月	2012年10-12月	
通常	13億円	23億円	+10億円
行政備蓄等	11億円	15億円	+4億円

予想比

2012年12月期 連結決算概要



損益の概要 1-12月実績

【億円】	実績	2月1日公表予想		
	2012年 1-12月	2012年 1-12月	+/-	達成率 (%)
売上高	3,912	4,185	▲273	93.5
製商品売上高	3,752	4,037	▲285	92.9
タミフルを除く	3,632	3,941	▲309	92.2
タミフル	120	96	+24	125.0
その他の営業収入	160	148	+12	108.1
売上原価	1,677	1,785	▲108	93.9
売上総利益	2,235	2,400	▲165	93.1
営業費	920	1,000	▲80	92.0
研究開発費	551	600	▲49	91.8
営業利益	764	800	▲36	95.5
経常利益	754	805	▲51	93.7
当期純利益	482	490	▲8	98.4

【億円】	実績	2月1日公表予想		
	2012年 通期	2012年 通期	+/-	達成率 (%)
タミフルを除く製商品売上高	3,632	3,941	▲309	92.2
国内	3,209	3,539	▲330	90.7
がん領域	1,561	1,654	▲93	94.4
アバスチン	655	688	▲33	95.2
ハーセプチン	287	273	+14	105.1
リツキシサン	247	253	▲6	97.6
ゼローダ	109	168	▲59	64.9
タルセバ	95	82	+13	115.9
骨・関節領域	663	703	▲40	94.3
アクテムラ	171	183	▲12	93.4
エビスタ	161	169	▲8	95.3
スベニール	123	147	▲24	83.7
アルファロール	81	80	+1	101.3
エディロール	79	78	+1	101.3
腎領域	481	627	▲146	76.7
ミルセラ	178	296	▲118	60.1
エポジン	145	168	▲23	86.3
移植・免疫・感染症領域	203	256	▲53	79.3
ペガシス	69	121	▲52	57.0
コベガス	20	27	▲7	74.1
その他領域	301	300	+1	100.3
海外	423	402	+21	105.2
アクテムラ	256	241	+15	106.2
ノイトロジン	139	131	+8	106.1

予想比

2012年12月期 連結決算概要

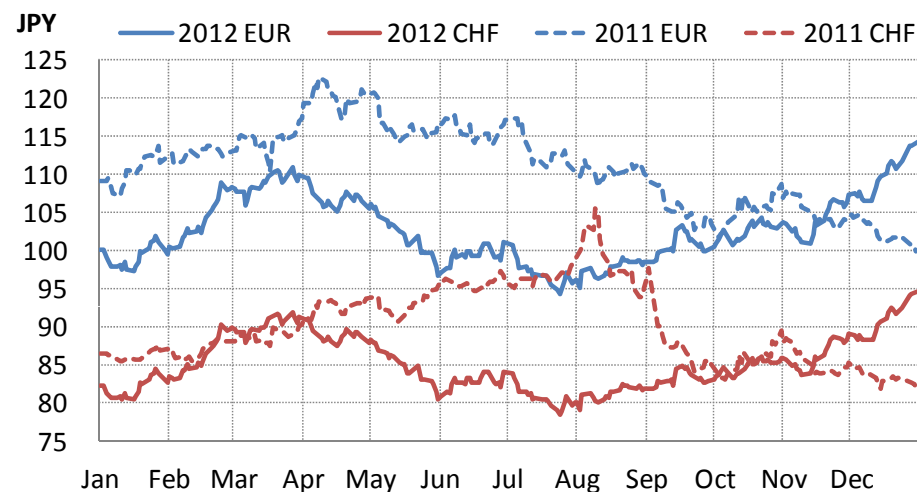


為替変動の影響について

	為替による影響 (想定レート対比)
売上高	▲11億円
	ノイトロジン(海外) ▲8億円
	アクテムラ(輸出) +1億円
	その他の営業収入等 ▲4億円
原価・販管費	ロシュ品原価 ▲2億円 海外販社販管費等 +5億円
営業利益	▲8億円
営業外収支	為替差損益・為替予約 ▲19億円
経常利益	▲27億円

- 期初予想 想定レート (通期)
CHF: 85.00円 EUR: 109.00円
- 1-12月実績レート(市場平均)
CHF: 85.12円 EUR: 102.59円

(ご参考) 為替レート推移(CHF,EUR)



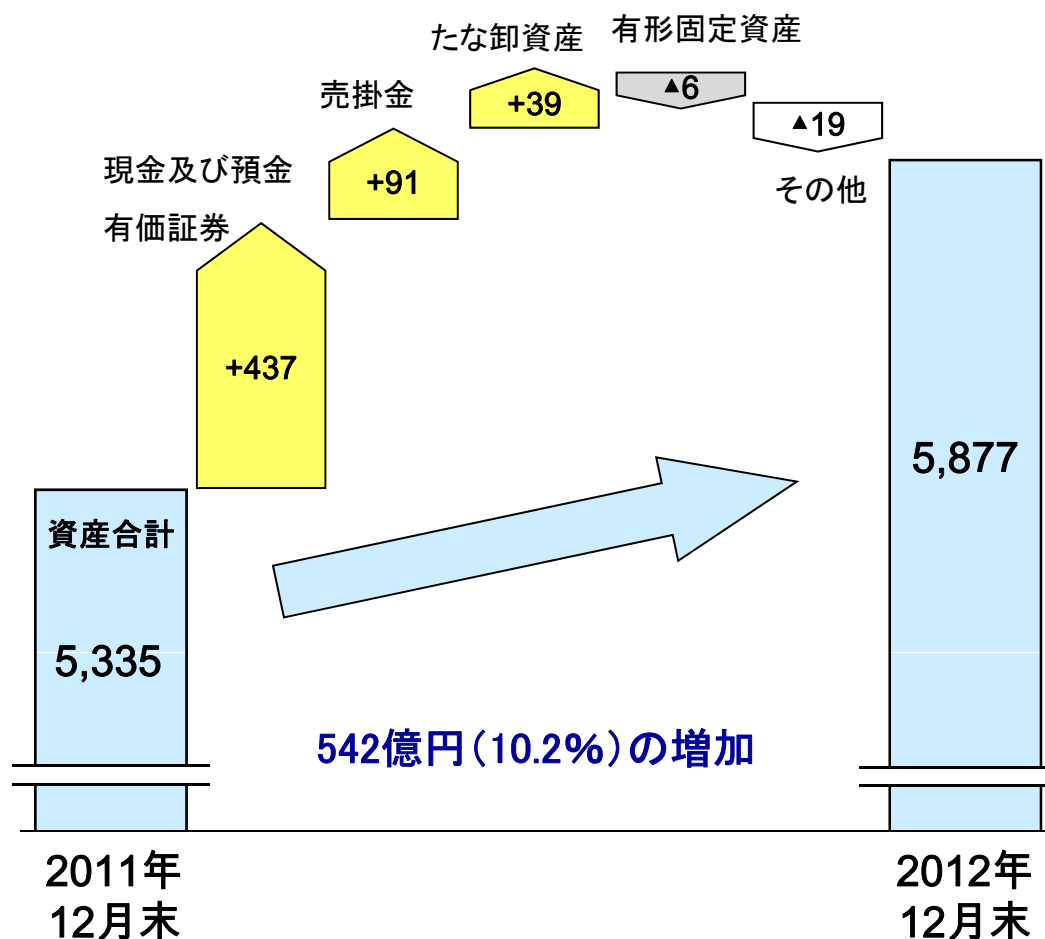
前期末比

2012年12月期 連結決算概要



貸借対照表/資産の部

【億円】



- 現金及び預金 +37億円
- 有価証券 +400億円
譲渡性預金の増加
- 売掛金 +91億円
- たな卸資産 +39億円
- 有形固定資産 ▲6億円
- その他 ▲19億円
繰延税金資産の減少

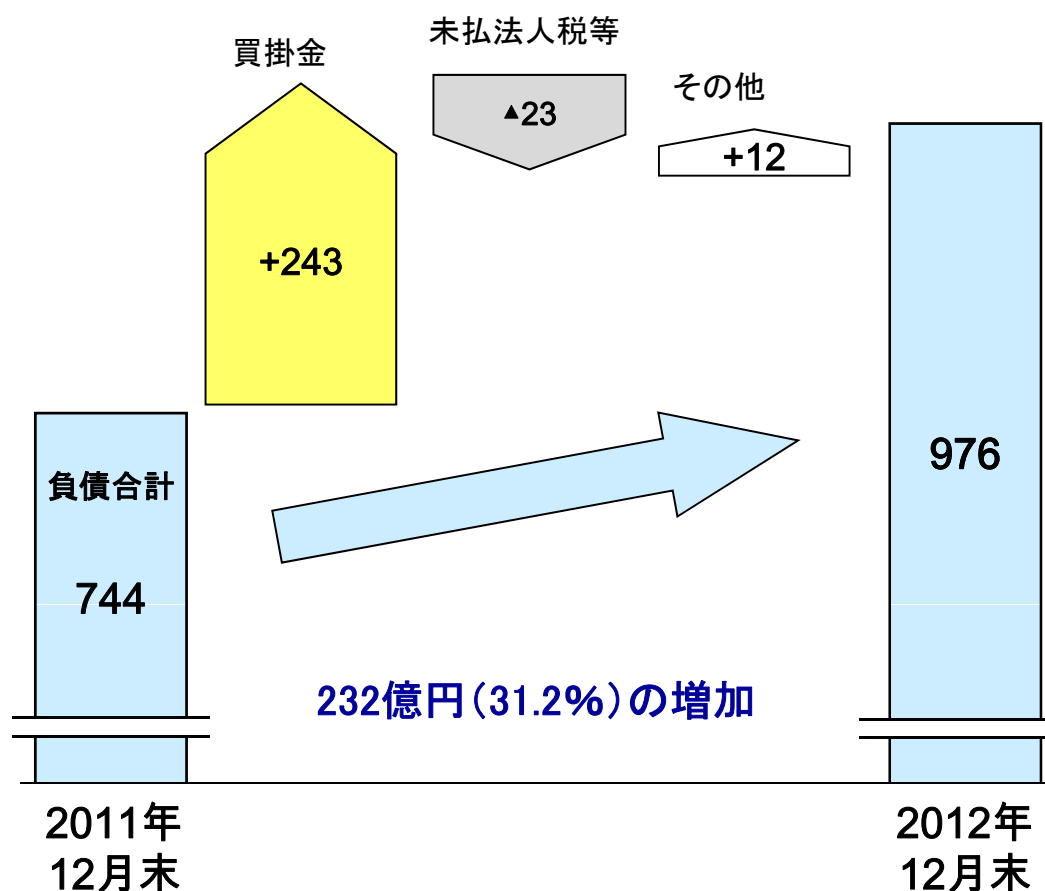
前期末比

2012年12月期 連結決算概要



貸借対照表/負債の部

【億円】



- 買掛金 +243億円
- 未払法人税等 ▲23億円
法人税の支払
- その他 +12億円
未払消費税等の増加

自己資本比率

2011年12月末	2012年12月末	増減
85.6%	83.0%	▲2.6%pts

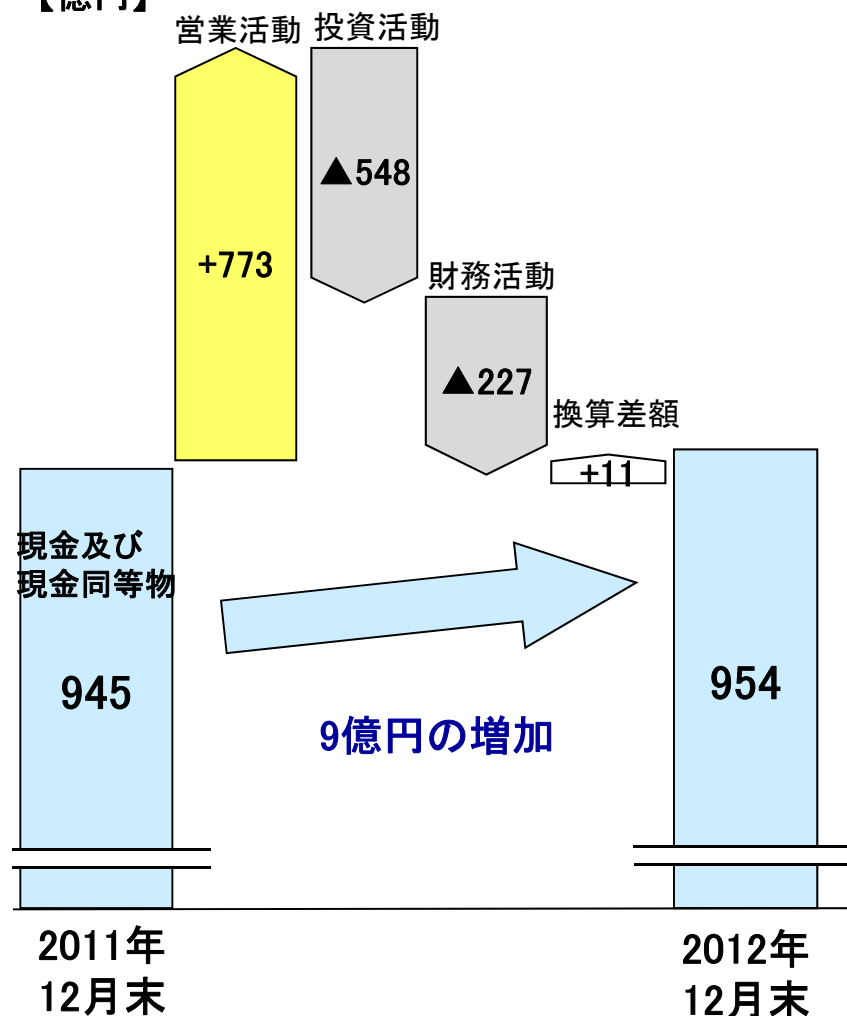
当期実績

2012年12月期 連結決算概要



キャッシュ・フロー 1-12月実績

【億円】



- 営業活動に伴うキャッシュ・フロー +773億円
 - 税前当期純利益 +753億円
 - 減価償却費等 +153億円
 - 運転資本の減少 +117億円
 - 売上債権の増加 ▲89億円
 - たな卸資産の増加 ▲37億円
 - 仕入債務の増加 +243億円
 - 災害損失の支払 ▲11億円
 - 法人税等の支払 ▲255億円
- 投資活動に伴うキャッシュ・フロー ▲548億円
 - 有価証券・投資有価証券の取得/売却 ▲386億円
 - 固定資産の取得 ▲151億円
- 財務活動に伴うキャッシュ・フロー ▲227億円
 - 配当金の支払 ▲218億円

IFRS

<参考数値>

2012年12月期 連結決算概要



2012年IFRS実績

【億円】	2012年 JGAAP	差異	2012年 IFRS	Non-Core	2012年 Core	【億円】
売上高	3,912	▲46	3,866		3,866	売上収益
製商品売上高	3,752	—	3,752		3,752	製商品売上高
その他の営業収入	160	▲47	113		113	ロイヤルティ及び その他の営業収入
売上原価	▲ 1,677	▲5	▲ 1,682	+9	▲ 1,673	売上原価
売上総利益	2,235	▲51	2,184	+9	2,193	売上総利益
営業費	▲ 920	+241	▲ 679	+0	▲ 679	販売費
研究開発費	▲ 551	▲115	▲ 666	+0	▲ 666	研究開発費
		▲92	▲ 92	+0	▲ 92	一般管理費等
営業利益	764	▲17	747	+9	756	営業利益

*IAS19「従業員給付」の改訂を2012年に遡って適用

損益の概要 2013年1-12月予想

【億円】	実績(Core)		予想(Core)		増減	
	2012年 1-12月	売上 (%)	2013年 1-12月	売上 (%)		
売上収益	3,866		4,160		+294	+7.6
製商品売上高	3,752		3,943		+191	+5.1
タミフルを除く	3,632		3,855		+223	+6.1
タミフル	120		88		▲ 32	▲26.7
ロイヤルティ及び その他の営業収入	113		217		+104	+92.0
売上原価	▲ 1,673		▲ 1,832		▲ 159	+9.5
売上総利益	2,193	56.7	2,328	56.0	+135	+6.2
経費計	▲ 1,437	▲ 37.2	▲ 1,553	▲ 37.3	▲ 116	+8.1
営業利益	756	19.6	775	18.6	+19	+2.5
EPS (円)	85.64		92.57		+6.93	+8.1

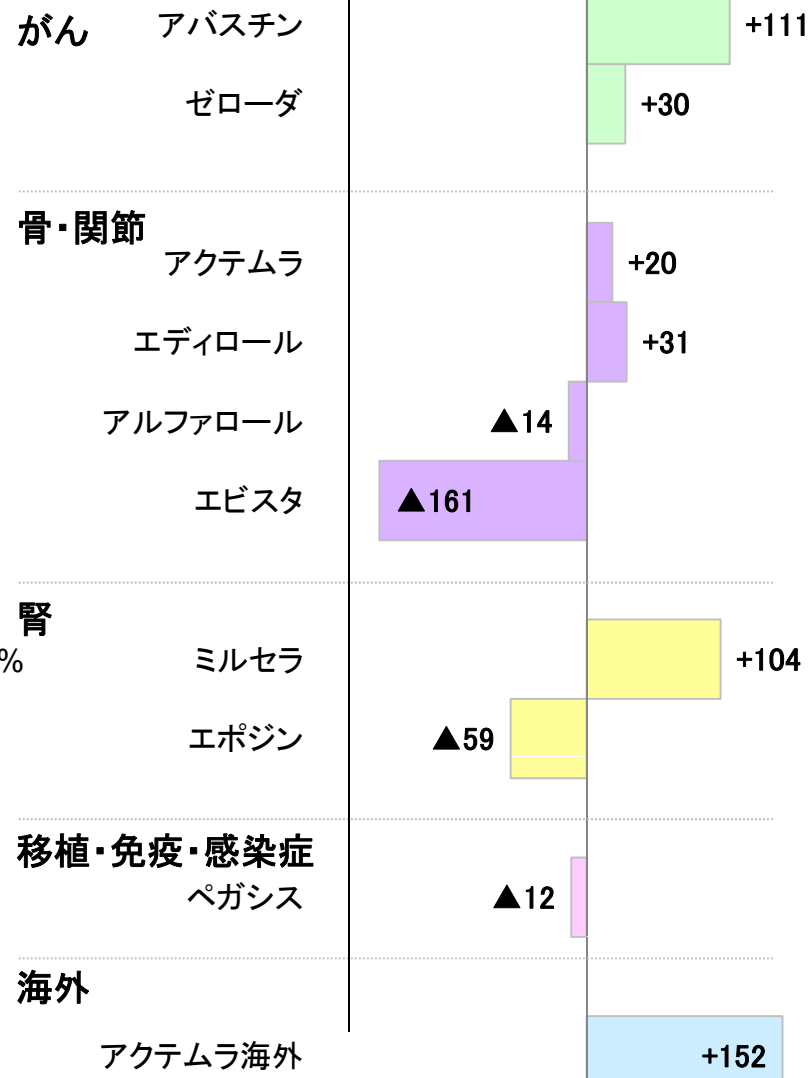
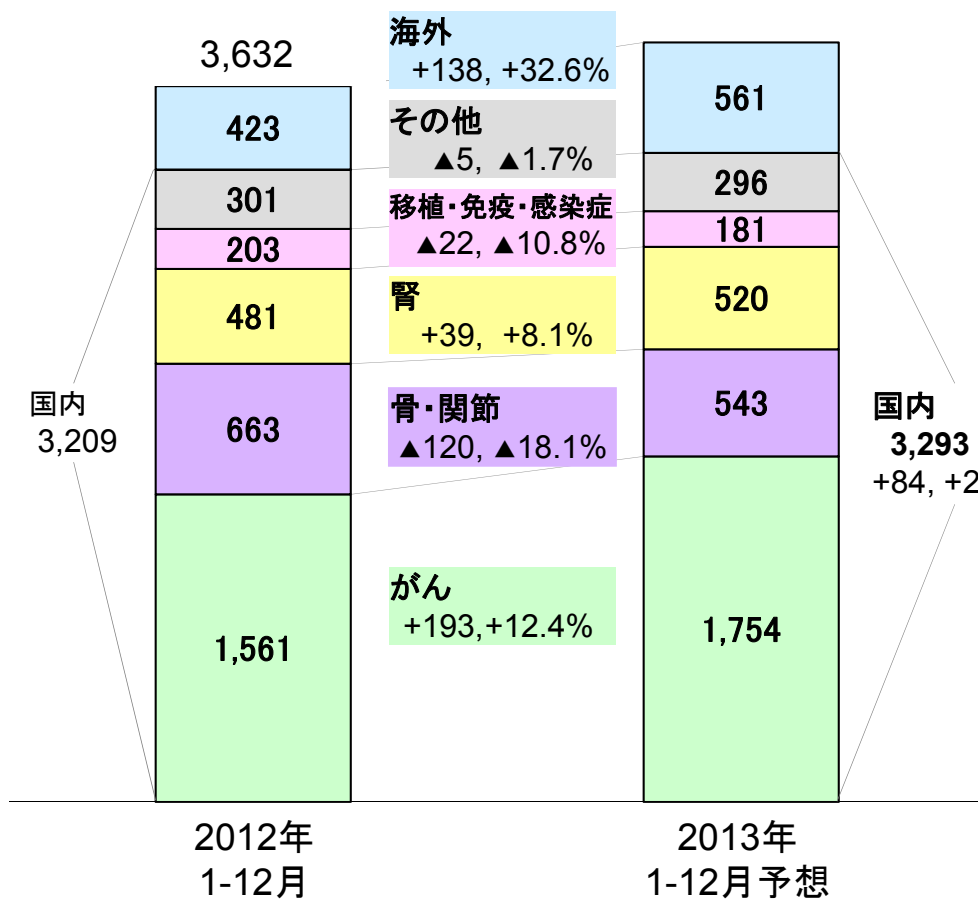
為替レート(円)

	2012年実績	2013年想定
CHF	85.12	95.00
EUR	102.59	115.00

製商品売上高 前同対比増減

【億円】

製商品売上高(タミフルを除く)
3,855億円 (+223, +6.1%)

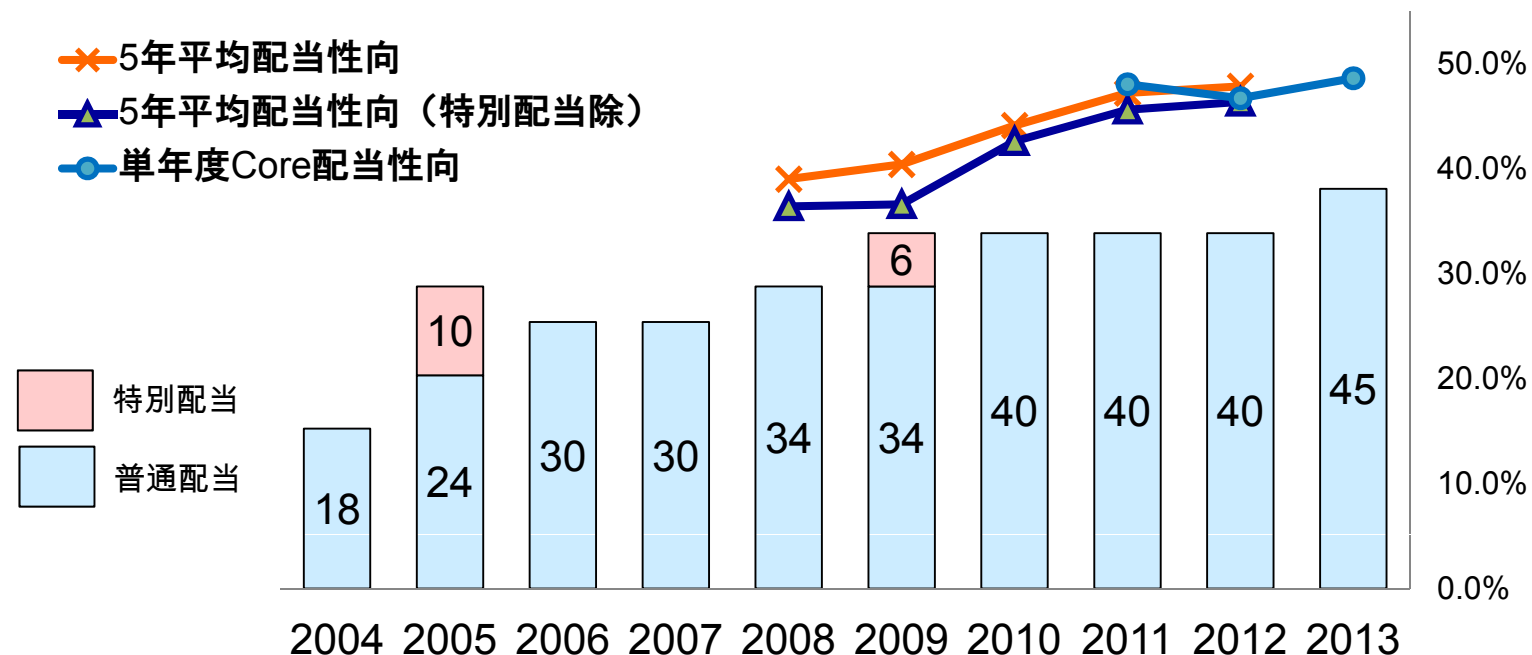


利益配分の方針及び当期・次期の配当

■ 方針

戦略的な投資資金需要や業績見通しを勘案した上で、Core EPS対比平均50%の配当性向を目処に、株主の皆様へ安定的な配当を行うことを目標とする

- 2012年12月期の年間配当(予定) 40円: 20円+20円
- 2013年12月期の年間配当(予想) 45円: 22円+23円



参考資料

<参考数値>

2012年12月期 連結決算概要



2012年 P/L差異

導出一時金の取扱いの影響で2012年の営業利益は IFRS<JGAAP

(単位:億円)	IFRS	JGAAP	差異	主な差異理由(IFRS利益増減影響)
売上収益	3,866	3,912	▲46	
製商品売上高	3,752	3,752	—	
ロイヤルティ及び その他の営業収入	113	160	▲47	導出一時金の取扱い
売上原価	▲1,682	▲1,677	▲5	減価償却費(バリデーション資産含む)/償却費
販売費	▲679	▲920	+241	P4/PMS費用、減価償却費、一般管理費
研究開発費	▲666	▲551	▲115	P4/PMS費用、減価償却費、開発品導入契約金の取扱い
一般管理費等	▲92	—	▲92	区分掲記、営業外/特損益含む
営業利益	747	764	▲17	営業外/特損益の組替を除くとIFRSが▲21億円
税前利益	727	753	▲26	営業外/特損益の組替影響
当期利益	468	482	▲14	IFRSでは非支配持分を含む

<参考数値>

2012年12月期 連結決算概要



2012年 P/Lの主な差異 -1

①-⑤: 次ページ参照

(単位:億円)	IFRS	差異計	組替 *1	認識/測定 *2	JGAAP	
売上収益	3,866	▲46	▲1	▲45	3,912	売上高
製商品売上高	3,752	—	—	—	3,752	製商品売上高
ロイヤルティ及び その他の営業収入	113	▲47	▲1	▲46 ①	160	その他の営業収入
売上原価	▲1,682	▲5	▲11	+6 ②	▲1,677	売上原価
売上総利益	2,184	▲51	▲12	▲39	2,235	売上総利益
販売費	▲679	+241	+234	+7 ②	▲920	営業費
研究開発費	▲666	▲115	▲128	+13 ②③	▲551	研究開発費
一般管理費等	▲92	▲92	▲90	▲2		
営業利益	747	▲17	+4	▲21	764	営業利益
金融収益	▲19	▲49	▲43	▲6	30	営業外収益
金融費用	▲0	+40	+39	+1	▲40	営業外費用
		+1	+1	+0	▲1	特別損失
税引前当期利益	727	▲26	—	▲26	753	税引前当期純利益
法人所得税等	▲258	+5	—	+5	▲263	法人税等
		+8	—	+8 ④	▲8	少数株主利益
当期利益	468	▲14	—	▲14	482	当期純利益

*1 表示科目の違いによる入り繰り

*2 基準の違いによる認識の有無やそのタイミング、あるいは認識される金額の違い

<参考数値>

2012年12月期 連結決算概要



2012年 P/Lの主な差異 -2

主な組替

* 金融収支を除く

JGAAPの表示科目	IFRSの表示科目	内容	IFRS科目上の利益影響
営業費	研究開発費	P4/PMS費用	▲93億円
	研究開発費	サービス部門費	▲35億円
	一般管理費等	コーポレート等管理部門費	▲100億円
営業外/特別損益	一般管理費等	営業外収支等*	+4億円

主な認識・測定差異

前頁の番号	IFRSの表示科目	内容	IFRS科目上の利益影響
①	ロイヤルティ及びその他の営業収入	導出一時金の認識	▲46億円
②	売上原価/販売費/研究開発費	減価償却費・償却費	+12億円
③	研究開発費	開発品導入契約金の認識	+6億円
④	該当なし	当期利益の定義の違い	+8億円

<参考数値>

2012年12月期 連結決算概要



2012年 Core営業利益

(単位:億円)	IFRS	無形資産・ 合併会計	その他の 除外事項	IFRS Core
売上収益	3,866			3,866
製商品売上高	3,752			3,752
ロイヤルティ及び その他の営業収入	113			113
売上原価	▲1,682	+9		▲1,673
売上総利益	2,184	+9		2,193
販売費	▲679	+0		▲679
研究開発費	▲666	+0		▲666
一般管理費等	▲92		+0	▲92
営業利益	747	+9	+0	756
金融収益	▲19			▲19
金融費用	▲0			▲0
税引前当期利益	727	+9	+0	736
法人所得税等	▲258	▲3	▲0	262
当期利益	468	+6	+0	474
当社の株主持分	461	+6	+0	466
非支配持分	8			8

Non-Core(除外)項目

1. 無形資産・合併会計
無形資産償却費:9億円除外。
無形資産の減損、合併会計に
該当はありません。

2. その他の除外事項
事業再編損:除外。
訴訟費用などに該当はありません。

(単位:億円)

Core当期利益
(当社株主帰属) 466

(単位:百万株)

潜在株式調整後
期中平均株式数 544

(単位:円)

Core EPS 85.64

<参考数値>

2012年12月期 連結決算概要



2012年期首及び期末 IFRS BS-資産

(単位: 億円)		2012.1.1	2012.12.31	増減
非流動資産	有形固定資産	1,434	1,431	▲3
	無形資産	65	65	▲0
	長期金融資産	49	63	+14
	その他の非流動資産	113	109	▲4
	繰延税金資産	240	207	▲33
	前払年金資産	10	27	+17
非流動資産合計		1,912	1,902	▲10
流動資産	棚卸資産	1,028	1,084	+56
	営業債権及びその他の債権	1,195	1,283	+88
	未収法人所得税	0	3	+3
	その他の流動資産	40	61	+21
	有価証券	752	1,165	+413
	現金及び現金同等物	945	954	+9
流動資産合計		3,961	4,551	+590
資産合計		5,873	6,453	+580

<参考数値>

2012年12月期 連結決算概要



2012年期首及び期末 IFRS BS-負債・純資産

(単位:億円)		2012.1.1	2012.12.31	増減
非流動負債	長期有利子負債	▲2	▲2	▲0
	繰延税金負債	▲93	▲100	▲7
	従業員給付	▲7	▲7	▲0
	長期引当金	▲19	▲19	+0
	その他の非流動負債	▲45	▲86	▲41
非流動負債合計		▲166	▲214	▲48
流動負債	短期有利子負債	▲0	▲0	▲0
	未払法人所得税	▲137	▲114	+23
	短期引当金	▲3	▲0	+3
	営業債務及びその他の債務	▲359	▲601	▲242
	その他の流動負債	▲217	▲231	▲14
流動負債合計		▲717	▲947	▲230
負債合計		▲883	▲1,162	▲279
純資産合計		4,990	5,292	+302
資本の帰属	当社の株主持分	4,978	5,280	+302
	非支配持分	12	12	▲0

開発パイプラインの状況

中外製薬株式会社
常務執行役員
プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長
田中 裕

2013.1.30/31

開発パイプライン（2013年1月30日現在）

	Phase I	Phase II	Phase III	Filed
がん	CIF/RG7167 - 固形がん CKI27/RG7304 - 固形がん PA799 - 固形がん WT4869 - 骨髄異形成症候群 (PI/II) - 固形がん WT2725 - 進行がん RG7204/vemurafenib - 悪性黒色腫(PI/II)	AF802/RG7853 - 非小細胞肺癌 (PI/II) GC33/RG7686 - 肝がん RG340/Xeloda - 胃がん (アジュバント) RG3502 /trastuzumab emtansine - 胃がん (PII/III)	RG435/Avastin - 膠芽腫 - 乳がん (アジュバント) RG1273/pertuzumab - 乳がん (アジュバント) GA101 (RG7159) /obinutuzumab - 非ホジキンリンパ腫 RG3638/onartuzumab - 非小細胞肺癌	RG435/Avastin - 再発膠芽腫 - 卵巣がん RG1273/pertuzumab - 乳がん RG1415/Tarceva - 非小細胞肺癌 (1 st line) RG3502 /trastuzumab emtansine - 乳がん★
骨・関節			NRD101/Suvenyl - 腱靱帯付着部症 RG484/Bonviva (oral) - 骨粗鬆症	RG484/Bonviva (inj) - 骨粗鬆症
自己免疫疾患	SA237 - 関節リウマチ RG7415/rontalizumab - 全身性エリテマトーデス			MRA/Actemra (国内) - 関節リウマチ (sc) MRA/Actemra (海外) - 関節リウマチ (sc)★
中枢神経	RG1450/gantenerumab - アルツハイマー病	RG7090 - 大うつ病	RG1678/bitopertin - 統合失調症	
その他	ACE910 - 血友病A CIM331 - アトピー性皮膚炎 RG3637/lebrikizumab - 気管支喘息 RG7652 - 高脂血症★		CSG452/tofogliflozin - 2型糖尿病	

開発の状況ーがん領域

導入品

RG3638 / onartuzumab (MetMAb)
非小細胞肺癌

2012年11月 P3国際共同治験開始

導入品

RG3502 / トラスツズマブ エムタンシン
(T-DM1)
乳がん

2013年1月 申請

導入品

GA101 (RG7159) / obinutuzumab

日本新薬株式会社と共同開発・共同販売契約
を締結

(予定適応症：非ホジキンリンパ腫)

開発の状況－自己免疫疾患、その他

自社品

MRA / Actemra皮下注製剤（海外）
関節リウマチ
2012年12月 申請

自社品

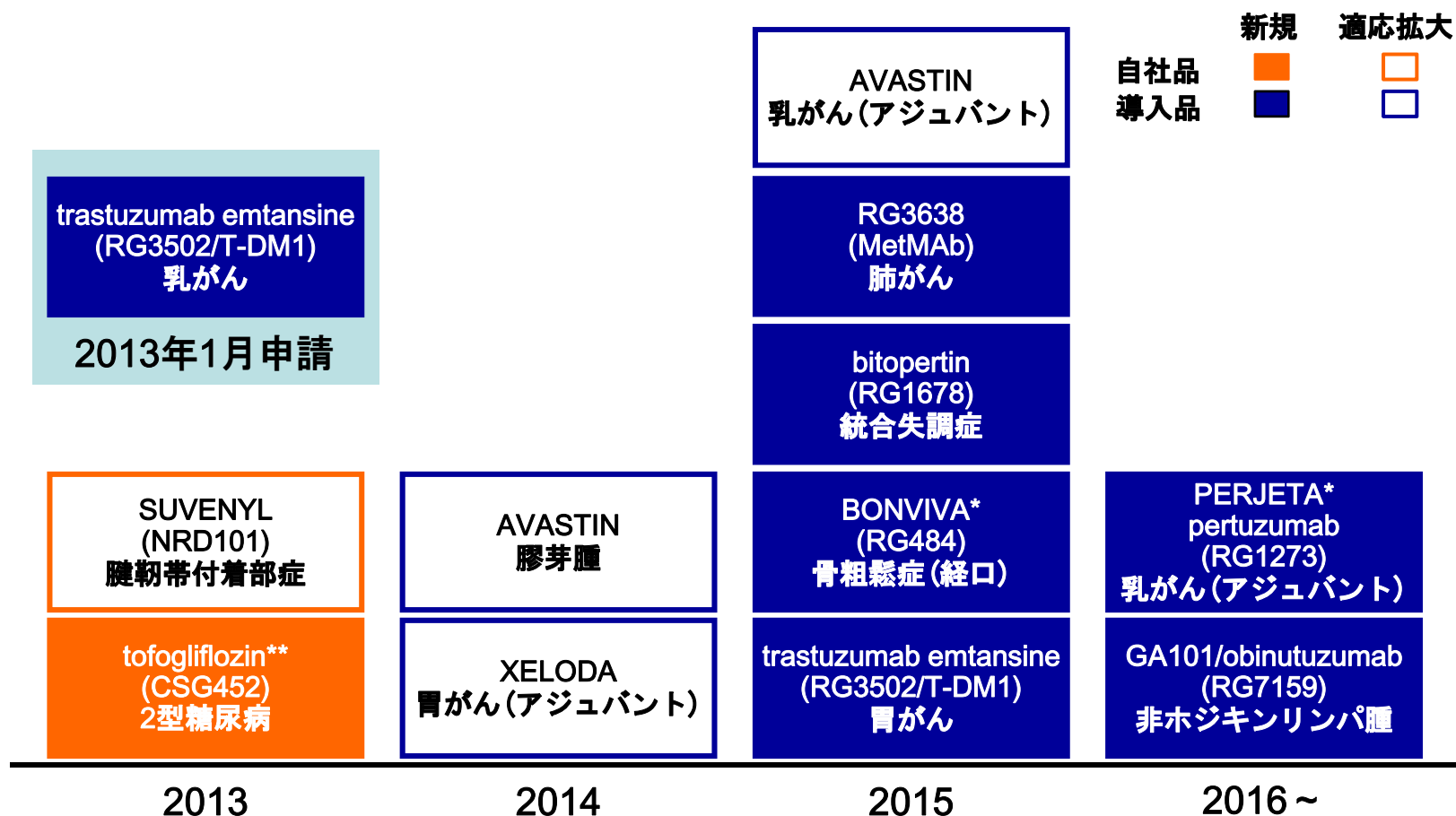
CSG452 / トホグリフロジン水和物
興和株式会社・サノフィ株式会社と
ライセンス契約を締結
（予定適応症：2型糖尿病）

導入品

RG7652
高脂血症
2012年10月 P1開始

今後の申請予定（PoC取得済製品・開発品）

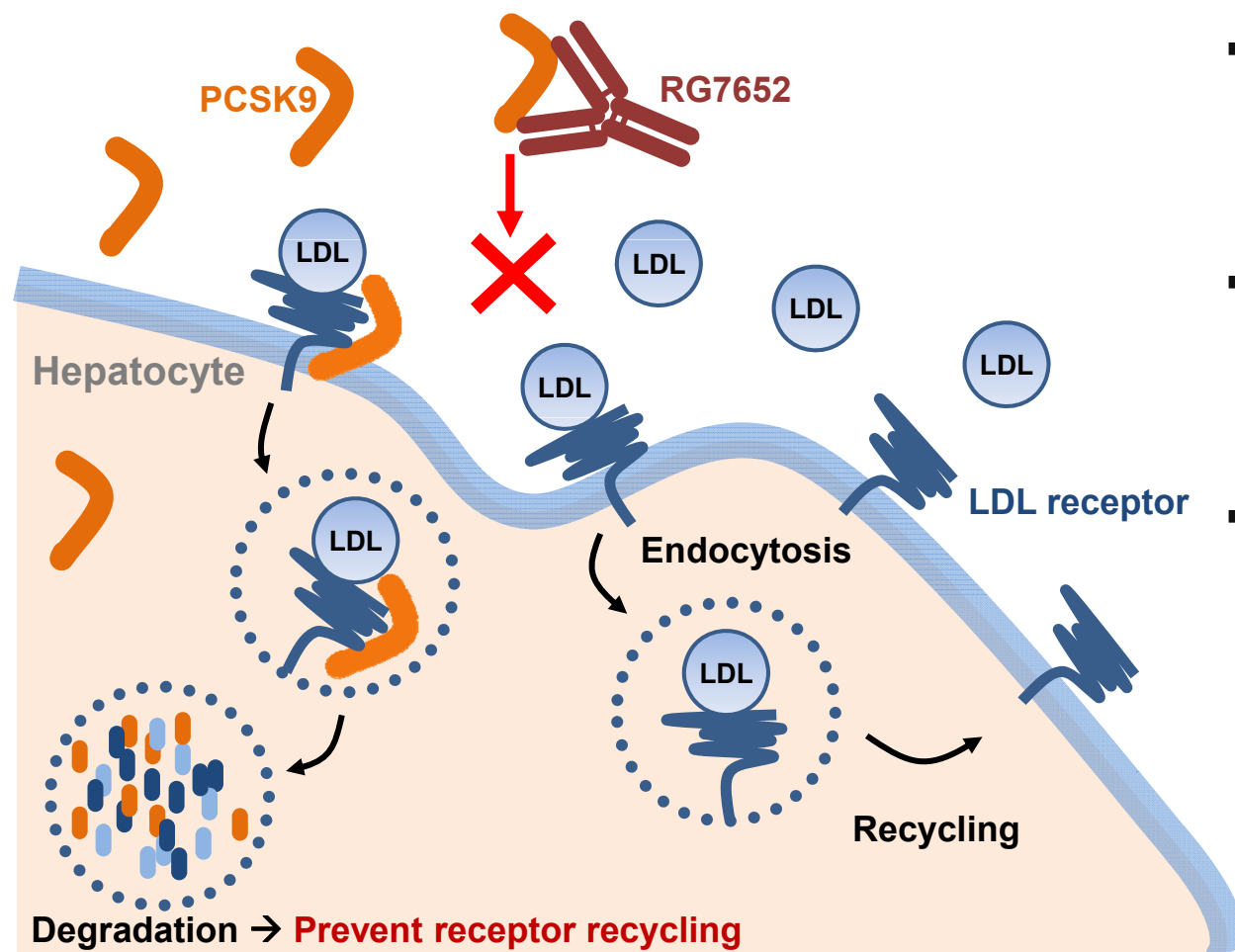
■ 引き続き毎年、新製品/適応拡大等を申請予定



* 海外製品名

** 興和・サノフィが申請

RG7652（ヒト抗PCSK9モノクローナル抗体） - 作用機序



- LDL 受容体を分解に誘導する PCSK9 の作用を阻害することにより、LDL コレステロール低下作用を示す
- PCSK9 の機能を欠損した遺伝変異では、LDL コレステロールが低値に維持され、心血管イベントの発現率も低い¹⁾
- PCSK9 産生が全く見られない遺伝変異においても、LDL コレステロールが低値を示す以外に特段の臨床的な異常は見出されておらず、PCSK9 阻害による有害作用は限定的と考えられる²⁾

PCSK9: proprotein convertase subtilisin/kexin type 9

1) Cohen et al., NEJM 2006

2) Zhao Z et al., American J Hum Genet 2006

未承認薬・適応外薬の開発要請への対応状況

- 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議
 - 第I回開発要請の8製品10適応症（用法・用量の追加を含む）のうち8製品9適応症については承認済み
 - 第I回開発要請品のうち対応中のアバスチン、バクトラミンおよび第II回開発要請の2製品2適応症については下表のとおり

開発要請	製品	適応症	現在の開発状況
第I回要望 開発要請品	アバスチン	卵巣がん	申請（2012年10月5日）
	バクトラミン	ニューモシスチス肺炎の治療 及び発症抑制	承認（2012年8月10日）
第II回要望 開発要請品	アバスチン	再発膠芽腫	申請（2012年9月19日）
	ハーセプチン	HER2過剰発現が確認された乳 がんにおける術後補助化学療 法への1週間間隔投与	2012年12月26日開催の 「第14回医療上の必要性 の高い未承認薬・適応外 薬検討会議」にて、公知 申請に該当と評価

赤字:2012/7/26からの変更点

お問い合わせ先：広報IR部

報道関係者の皆様：広報グループ

Tel : 03-3273-0881

e-mail : pr@chugai-pharm.co.jp

担当：相川、河原、宮田、荒木

投資家の皆様：IRグループ

Tel : 03-3273-0554

e-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当：内田、櫻井、時田、喜多村、蓑島